

令和5年度【第6期】事業報告（案）

I 事業方針

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定されて以来、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響はすでに顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、解決のための具体的な適応策の実施はもはや待ったなしの状況となってきました。

一般財団法人世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産官学民での防災のソリューションの追求や国際的な共有を目的とし、防災(BOSAI)という概念の薄い国や地域に対し、防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させる事業を行ってまいります。そして、この事業を通して仙台防災枠組、パリ協定、持続可能な開発目標 (SDGs)の達成や実施のために貢献してまいります。

II 個別事業

1. 公益事業

(1)情報発信事業

【第3回世界防災フォーラム実施】

第3回世界防災フォーラムを2023年3月10日から12日の日程で、仙台国際センター一会議棟／展示棟で実施しました。

39カ国から1,335名の方に会議の事前登録いただきました。当日参加者やEXPO参加者なども含めた最終的な人数は3日間で延べ5,412名となりました。今回は市民の方に無償参加を呼びかけた結果、より多くの方に参加いただくことができました。

会場では、口頭セッション30、カンファレンス7、ポスター発表55、ミニプレゼンテーション33、EXPO展示ブース33が展開されました。国際機関、政府、学术界、民間企業、NGO、市民の対話を通じて、災害リスク軽減の具体的な解決策を議論し、世界に情報発信しました。SDGsへの関心の高まりからインクルージョン、ジェンダーなどの側面から防災を捉えたセッションが多く開催され、女性の参加や高校生も含む若年層の方の企画したセッションが目立ちました。

今回初の試みとして、世界防災賞を制定しました。受賞者は 100 年前の関東大震災の際に当時の排日政策の中、躊躇わず日本を援助した米国第 30 代大統領カルバン・クーリッジ氏、日本からは、資金不足や厳しい逆風の中普代水門を作った岩手県普代村の元村長和村幸得氏です。どちらも防災のためにリーダーとしての責任と意志を貫き通したことが注目されました。

クロージングでは東日本大震災の復興にも携わった ZiNEZ&sakkuman によるフリースタイルバスケットボールパフォーマンス、東北大学交響楽団のメンバーによる演奏、仙台市立第一中学校合唱団による合唱、May J.のステージなどが披露されました。文化芸能と防災の融合を象徴したクロージングとなりました。

そして、2023 年 5 月に国連総会で実施される仙台防災枠組の中間評価に向けた提言を国連事務総長特別代表(防災担当)兼国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) ヘッドである水鳥真美氏に手渡しました。

【世界防災関連博物館のネットワーク構築事業】

博物館は市民が防災を身近に感じることができる施設として重要な意味を持っています。しかし、現状では世界の博物館リストや、博物館同士のネットワークすら存在していないのが実情です。まずは「World Bosai Walk Tohoku+10」で培った東北沿岸部の震災博物館や伝承館のネットワーク作りを継続して実施しました。

また、今期は関連事業として、東北大学災害科学国際研究所の研究チーム、米国のクーリッジ記念財団と連携し、関東大震災 100 周年にちなんで、関東大震災時に日本の復興支援を大規模に行った米国第 30 代大統領であるクーリッジの業績を紹介し、多くの方の注目を集めました。

(2) 調査研究事業

【GDB 運営支援事業】

防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させるためには、災害が経済に与える影響を、わかりやすい形で示す必要があります。仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のために、東北大学災害科学国際研究所災害統計グローバル統計センターの活動を支援しました。

GDB 運営にかかる民間企業とのパートナーシップの強化など、財団の強みを活かし、本事業に対する貢献を今後も継続してまいります。

【途上国の災害リスクの軽減プロジェクト(バングラデッシュのトルネード災害の軽減)】

本事業については大きな進捗はありませんでした。

2. 収益事業

【第4回世界津波博物館会議実施報告書作成業務】

2022年12月に実施された第4回世界津波博物館会議において、実施報告書作成を東北大学と業務委託契約を締結し、会議の議事録、要約、報告書を作成しました。

【民間企業との事業検討に関するコンサルティング業務】

株式会社オプテージの新規事業開発についてのコンサルティングを実施しました。世界防災フォーラムの有している海外とのレリーションを活用した民間企業ビジネスへの貢献、価値創造の好例となりました。

【インクルージョン×防災セッション運営補助業務】

第3回世界防災フォーラムに関するセッション開催の支援業務を東北大学から業務委託で実施し、事前準備や議事録作成などを実施しました。

【その他】

第3回世界防災フォーラムにおいて、物販やレセプション等の営利事業を実施しました。

Ⅲ 運営基盤の強化について

1. 財務

財務については、世界防災フォーラムの赤字により(直接的な原因としては、世界防災フォーラムの有償参加登録者の伸び悩みによる収入減、他の大型イベントが同日、仙台市内で行われたことによる予期せぬ支出などがあげられる)正味財産が大きくマイナスとなりました。(マイナス約400万)

2. 体制

インターンやボランティア等の活用は実施したが、持続的な人員の補強には至りませんでした。

3. 広報活動

可能な範囲で、WEBサイトの充実や財団紹介のためのパンフレット作成、SNSの本格活用など、これまでにない取り組みを実施することができました。

以上